

ほうこん

題字・清水英夫

新年度役員選挙、 開票結果の報告

◇放送批評懇談会は、2005年5月にNPO法人となり、本年は2回目の役員改選期を迎えた。投票は「細則」第1条に則り、無記名の郵送で行なった。3月25日午後1時に締切り、午後2時より第3条に定める選挙管理委員会により開票された。◇選挙管理委員は、谷口和巳さん、松山珠美さん、三原治さんの3会員に委嘱。互選により谷口さんを委員長に選出して開票を進行した。◇選挙結果の公表(細則第4条) 会員数 189名
投票総数 112票
有効投票数 110票
無効票 2票(白票1票、推挙数超過1票)
投票率 59.25%
◇理事候補者について 選挙管理委員会は、得票数の上位15名までの会員に理事候補者として文書でお知らせし、理事に就任する意志の有無を4月4日までに回答をいただくお願いをした。その結果により、細則第1条、第2条に則り、「理事会準備会」を4月15日に開催し、理事長候補者とその他の理事、監事候補者を指名する。そして、6月21日に開催する総会でそれぞれ承認を受けて就任する段取りになる。

◇「GALAC」について 7月号、8月号はギャラクシー賞の詳細結果を掲載。その他の特集内容は検討中。
 ◇選奨事業委員会 ギャラクシー賞下期の応募締切り日を迎え、4月にかけて審査会を実施する。応募状況は部門によって違いがあるが、ほぼ前年並みの状況。
 ◇ギャラクシー賞贈賞式・演出の件 各部門のオープニングタイトルを新たな映像で作成し、ビジュアル効果を高める。45回目の節目として、また全体を盛り上げるための特別賞は、長年放送界に貢献した人を顕彰することとした。選奨各委員会から候補を推薦し、志賀理事長を中心とした選考会で決めることになった。
 ◇マイベストTV賞 現在Web会員は、860名。若

今年の総会は、6月21日(土) 開催に決定!

3月理事会報告

3月26日に開催。者ターゲットにケータイからも投票できる体制になったが、現状まだ人数は少ない。2回目を迎える年間グランプリは、月間ノミネート作品37本(予定)からの再投票で決める。期間は4月22日から5月14日まで。授賞式のプレゼンターは昨年同様Web会員から選出するが、身元確認を慎重に進める。来年度に向けた課題としては、ノミネート作品以外の番組の推薦欄設置、レギュラー番組への投票、人気調査(ニューズキャスター、お笑いタレントなど)を検討している。
 ◇放懇理事選挙の件 1頁に記載の通り結果報告した。
 ◇正会員の入会を承認 川口昇児さん
 ◇正会員の退会を承認 山藤米子さん
 ◇総会日程について

6月21日(土) 午後3時からに決定した。場所は、新宿厚生年金会館の予定。
 (出席のご予定をお願いします)

◇次回の理事会 4月30日(水) 6時30分より
 「出席」志賀信夫、音好宏、田代勝彦、小田桐誠、上滝徹也、入江たのし、岩本太郎、坂本衛、篠原俊行、嶋田親一、永田俊和、橋本隆、藤久ミネ、山田健太

新入会員

◇川口昇児(かわぐち・しょうじ)

会議記録

【3月】.....
 10日 企画事業委員会
 17日 グランドデザイン
 18日 選奨・CM定例部会
 19日 選奨・ラジオ定例部会
 26日 選奨・テレビ月評会
 27日 理事会
 31日 出版編集委員会

清水英夫さんにNHK放送文化賞！

当会名誉会長を務める清水英夫さんが、第59回日本放送協会放送文化賞を受賞されました。この賞はNHKの主催。1948年に放送開始25周年事業として創設されたもので、放送事業の発展、放送文化の向上に功績のあった方々が表彰されてきました。これまでの受賞者は377名となります。

清水さんは、報道と人権の調和に関する研究の第一人者として、放送と人権等権利に関する委員会V（BRC）の発足から参加して委員長も務め、引き続き放送倫理・番組向上機構V（BPO）理事長として、世界に類例のない第三者機関の発展、定着に尽力。長年にわたり放送倫理と番組の質の向上に貢献したことが高く評価されました。

清水さんのほか今年度の受賞者は、田中徹二さん（日本点字図書館理事長）、中村慶久さん（東北大学名誉教授）、半藤一利さん（ノンフィクション作家）、藤村志保さん、渡哲

也さん（俳優）でした。贈呈式は3月21日（金曜日）の「第83回放送記念日記念式典」の中で行われ、NHK会長の福地茂雄氏からブロンズ像が贈られました。



NHK 福地会長からブロンズ像を受け取る清水さん

受賞のスピーチに立つ清水さん



今年度受賞者の皆さん。左が清水英夫さん

放懇有志による〈演出名人・石橋冠氏を囲む会〉を終えて

石井清司（世話人）

3月15日（土）、午後6時から青山の東京ウイメンズプラザで開いた「制作・表現名人を囲む集い」第1回は、松本清張原作、竹山洋脚本の前・後編各2時間半ドラマ「点と線」芸術祭大賞受賞）を演出した石橋冠氏を囲んで無事終了した。

当初よりゲストと参加者相互の個性味が室内に横溢するように、「小さな集い」を考え、誘い合って集った結果、予定通り10人のこじんまりした集いとなり、その分密度の濃い対話の場が得られた。

冒頭少し石橋氏の作品「兄弟」（ピートたけし主演）を観ながら、①海面のニシンの大群と追う上空のカモメ群のCGのこと、②山上でのロケが大雷雨に襲われ撤去して逃げ降りたこと、③たけしが寒風下、一歩も退かず並みのスターではなかったこと、④風雨に見舞われ計算外が好シーンになったこと、など石橋氏の話にエンジンがかかった。

本題「点と線」の軸は、たけしが30日スケジュールを取ったこと、俳優として事前読み込みの凄さ（ぜんぶセリフが入っていた）、自然体を演技にする名優味、大作を物してきた世界の大監督が一俳優としてひたすらついてきてくれる「ある

怖さ」に、石橋氏は身が震え、二人の間に見えない火花が散っていたこと等々、今だから話せる〈たけしとの現場〉となった。

同作が「テレビ初」となった秘話も語られた。「点と線」ミステリーの生命線〈東京駅でホームが見通せる4分間〉のシーンのためだけに、JR西日本が廃線跡に東京駅ホームのセットづくりのOKを出したことが明かされた。

テレビ朝日が周年記念で大予算と2晩5時間を組んだこと、竹山洋の哲学性を滲ませた堂々の好脚本が上がったこと、大俳優たちが軒並み端役で参加してきたこと（まわりに主役級が勢揃いし、たけしとの共演をみなが心から望んでいた）など、これらの裏話が語られ、作品づくりの秘話だけでなく、表現者として生涯を生きる凄みを目の前で味わった。

冠氏の激烈な青春、日本テレビ入社後の無惨なサラリーマン演出生活、フリーの今の至福感。また、倉本聰、山田太一等々、組んだ脚本の硬骨漢たちとの一触即発の危ういさまざまな場面を、冠氏のひょうひょうとした語りが昨日のこのように再現する。二度と聴けない演出人生のテキストを、思いがけず堪能した3時間だった。またやりたい。出席は、田代、嶋田、隈部（放懇）、今野勉、荻野慶人（放送人の会）ほか。

マイベストTV賞 2008年3月度投票&年間グランプリについて

ギャラクシー賞マイベストTV賞2008年3月度作品の投票を開始します。正会員の皆さまは、添付した〈正会員専用 投票用紙〉でマイベストTV賞の投票にご参加ください。年間グランプリの投票は4月22日に開始しますので、3月投票期間は4月21日までと短くなります。ご注意ください！

マイベストTV賞 携帯サイト、オープンしました！ 投票もこちらから！



<http://www.houkon.jp/m>

ギャラクシー賞マイベストTV賞 月間ノミネート番組発表！

■1月度

- ・ドラマスペシャル 「のだめカンタービレ in ヨーロッパ」 フジテレビ
- ・鹿男あをによし フジテレビ
- ・土曜ドラマ「フルスイング」 NHK